



2月1日(火)

私たちは溺れて死にそうです！

聖書朗読 マルコ4：35～41

志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたを信頼しているからです。  
イザヤ26：3

イエス様と弟子たちが向こう岸に渡ろうとされた時、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになり、弟子たちは震え上がりました。しかし、その後、弟子たちは、そのような自然な力をもご支配されている方と一緒にだったと気付くのです。

信仰のなさを露呈させるのは何と簡単なことでしょうか。私たちが当時の弟子たちと共にいたらどうでしょうか。「心配する必要なんてないさ。イエス様が私たちと一緒にいてくださるのだから。」と言えたでしょうか。

イエス様は、弟子たちにどうしてこのような怖い体験をさせたのでしょうか。嵐を静められるお方が、どうしてその嵐を起こさないようになさらなかったのでしょうか。

この大嵐、突風が示しているのは、人間の力には限りがあり、限りがあるゆえに、私たちは、万能のお方に助けを求めるといことなのです。

マルコでは、「先生、私たちが溺れて死にそうでも、何とも思わないのですか。」と記されています。

この弟子たちによる活きた学びはなんと価値あるものだったことでしょうか。そして、当時の弟子たちの学びは現代に生きる私たちの学びでもあります。イエス様は本当に私たちを気にかけて下さり、守って下さっています。私たちが求めている一瞬の慰めより、長い目で見た霊的な安全へと導いて下さっているのです。

嵐を静めたイエス様をご覧になり、弟子たちはこう言いました。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

イエス様は私たちが思っている以上に大いなるお方なのです！

讃美歌 126

祈り お父様、たとえ嵐が吹き荒れようともあなたを信頼することができるように助けて下さい。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デーヴィッド・ギブソン  
テキサス州 コーマス

2月2日(水)

使者を黙らす

聖書朗読 マルコ6：14～29

ナタンはダビデに言った。「あなたがその男です。」 IIサムエル12：7

あなたに減量を進言した医者や煙たがり、別の医者に行ってもあなたは健康にならないということをご存知ですか。つまり、私たちは時として辛い現実を見ようとせず、そこから逃避しがちです。ですから、はっきりと事実を言ってくれる者を無視してしまうのです。政治家を見て下さい。自分たちの行動に責任をとるより、他の政党の非難をすることに絶えず終始しているでしょう。では、クリスチャンである私たちはどうでしょうか。主のことばが私たちの目の前に来た時それと向き合うことが出来ますか。それとも無視しますか。

今日の聖書の箇所では、権力を持っている者の多くがそうであるようにヘロデヤヘロデヤも、パプテスマのヨハネの批判を受け入れることが出来ず、殺してしまいました。このようなことは愚かな者に起こります。正しいことを言った者が、無視され、殺されてしまうのです。ヨハネは亡くなりましたが、ヨハネが言ったことは2000年間宣べ伝えられ現在に至っています。

人間の悪行は心の病です。心が頑なになってしまうのです。自分の立場を守ろうとするとき、主のあわれみ、みことばへの確信をないがしろにし、赦しの喜びや悔い改めという主からの贈物を頂くことを拒絶してしまうのです。私たちは常に問題に直面し立ち向かうことを避けようとしません。しかし、赦しは頂きたいのです。みことばが私たちの前に立ちふさがるとき、それらを受け入れ、行動に移すには多大な痛みを伴います。しかし、やがて必ず癒しがきます。みことばに従い自分を変えていきましょう。そうすることにより、あなたは主に似るものとなっていきます。

讃美歌 501

祈り アバ、父よ。私たちの心を柔らかくしてあなたの確固たるみことばを受け入れることができますようにして下さい。御霊がもたらす悔い改めの贈物を受け取ることができますように。あなたに赦して頂き感謝の喜びをもってあなたにお仕えすることができますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ティモシーW. ケリー  
コロラド州 リトルトン

2月3日(木)

### 間違った優先順位

聖書朗読 マルコ 7:1~13

何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

ピリピ2:3~4

日曜日の朝、ある女性が道の脇に車を止めました。そして車から降りて来て、パンクしてしまったと思われる箇所のタイヤを見ていました。どうやらタイヤを交換するのに人の手が必要のようです。子どもたちはクルマの後ろの席に乗っています。彼女の車の脇を、きちんとした身なりの先を急ぐ人々の車が何台も通り過ぎてゆきました。彼女は日曜日の朝、この地(アメリカ)で多くの人々が礼拝に行く中で、礼拝を犠牲にして自分を助けられる人がいるだろうかと暗い気持ちになりました。しかし、ついにある車が止まりました。彼は車から出るとすぐ上着を脱いでこう言いました。「さっさとパンクを直して君たちを目的地に出発させないとね。ところでジャッキはどこにあるかな?」

この男性は温かい言葉をかけながら、30分くらいでパンクを直してくれました。彼の手は油でべとべとになり、シャツは汚れてしまいましたが、それを気にするそぶりも見せず、彼女にも心配いらないと伝えました。彼女は何と言って良いかわからないほど感謝し、その言葉を彼に伝えました。その後すぐ彼は立ち去り、彼の車の後から彼女たちも出発しました。しばらく走って行くと、何だか彼の車は彼女の行く教会の駐車場に入って行きます。そして、なんと彼が駐車している所には、「説教者」と書かれていたのです。

時々私たちは困っている人を見過ごして、自分たちのルーティンを優先させてしまいます。しかし、もし私たちが主が与えて下さったお仕える機会を見過ごしてしまうならば、自分たちの優先順位を再確認することが必要です。どうか、自分の心の中をもう一度見て下さい。イエス様の心を持って今日を生きていますか。

讃美歌 451

祈り 親愛なる主よ、毎日の生活でイエス様の心をもって人々に接することができますように。イエス様の優先順位で私たちも生きることが出来ますように。どんなに大変でも助けが必要な方にお仕えることができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

イレイン・マッケンドリー  
テキサス州 ミルサップ

2月4日(金)

### 神の時を待つ

聖書朗読 マルコ8:22~26

この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われたのです。

ヨハネ 9:3

神様は色々な方法で様々なことをなさいました。創世記で万物を創造されたことを思い出して下さい。創世記では、「光があれ。」と言われ、そしてすぐに光がありました。そこに光が瞬間的に存在したように見えます。また、ある時は、一瞬にして少女を癒しました(マルコ5:38)。

しかし、今日の聖書の箇所では、イエス様は奇跡を段階的に行ないました。なぜでしょうか。聖書にはその理由は示されていません。しかし、そこには「段階的」な癒しが描かれています。私たちが怪我をしたり、病気になったりして回復する時は、人間の身体が驚くほど変化します。しかし、その回復は一瞬ではなく「段階的」なものです。

聖書には、霊的な真実が詰まっています。しかし、多くの場合、それらは早急に、または簡単に理解できるものではありません。私たちが神様のみことばに留まる時、光が段々明るくなるように、私たちのみことばの理解も信仰もある時は速く、時にはゆっくりと成長していきます。今日、私たちがこの世の光になれるように主にお祈りする時、主がその道を示して下さい。そして、その道を忍耐強く歩んで行く必要があります。もう一度、イエス様が盲人を段階的に癒してくださったように、私たちの信仰も時にゆっくりと成長することを覚えましょう。ゆっくりと確かに!

讃美歌 II 45

祈り 親愛なるお父様、あなたは、あなたとイエス様を知るために沢山の方法をお示しになりました。私はあなたがみことばで示して下さいた預言、例えば話、奇跡の数々に心より感謝します。それらを示して下さいたことによりあなたをより分かり易く知ることができます。感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

W. スコット ウッドリー  
テネシーナ州 キングストン

2月5日(土)

神の本当の御姿

聖書朗読 マルコ9:1~13

私たちは聖なる山でイエスとともにいたので、天からかかったこの御声を、自分自身で聞いたのです。

Ⅱペテロ1:18

マルコの福音書8章でイエス様はご自分の死を預言されました。しかし、ペテロはそれをいさめました。するとイエス様は「下がれ。サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」と言われました。

その6日後、ペテロはヤコブとヨハネと共に、「神の本当の御姿」を見たのです。つまり、イエス様が朽ちる御姿から永遠の御姿に変わったことを見たのです。ペテロとヤコブとヨハネは、イエス様の御衣がまばゆく白く光り、その白さは想像もつかない程でそれゆえに主を畏れました。神の本当の御姿は彼らの理解を越えていたのです。

しかしながら、彼らがイエス様を理解できないことが、イエス様に従うか従わないかを定めるものではありませんでした。「イエス様の本当の御姿」を理解できなかったのですが、イエス様を信頼し従いました。

私たちにも自分が思い描いた計画があり、そこにばかり焦点をあててしまうことがあるかもしれません。そして、それゆえに、ペテロのように「神の本当のお姿」を見ることができないかもしれません。自分がこうしたいことにばかり目を留めて、そこで進まない自転車をこいでいる状態かもしれません。しかし、その時こそ、イエス様がペテロとヤコブとヨハネを連れて行って下さったように、高い山に登りイエス様の本当の御姿のほんの一部でも見せていただき、また「人間の自己中心の姿」を捨て去り、主を信頼して主に従うという決心を新たにしたいものです。

讃美歌 513

祈り 親愛なる主よ。自分のしたいことに目を向け、あなたから目を逸らしてしまう愚かな私をお許してください。今日からまたあなたのみにも目を向けることが出来ますように助けて下さい。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジナD. ゴードン

サウスカロライナ州 ミュレルズ インレット

2月6日(日)

全幅の信頼を置いて祈る

聖書朗読 マルコ 9:14~29

いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるためにイエスは彼らにたとえを話された。

ルカ 18:1

私たちが信じていることについて論じ合うのが必要な時もあります。私たちは正しいことを信じたいと思っていますから。しかし、私たちが危機に直面したときは、自分が信じていることが正しいかどうかより、その危機を乗り越えたいのです。

今日の聖書の箇所では弟子たちは、口をきけなくする霊につかれたある男の息子を癒すことが出来ず、律法学者と論じていました。そんなところにイエス様がいらっしゃいました。この父親も息子を本当に治して頂けるのかと疑いの気持ちがありました。誰でもこれを信じますというときは、一点の曇りなく「信じます!」と言えます。少しの疑いがあると、その疑いは湿地帯の苔のように広がっていきます。

丁度そのような時、父親は「できになるものなら治して下さい」とイエス様に訴えます。イエス様が、「できるものならと言うのですか。信じる者にはどんなことでもできるのです。」と応えます。すると父親は「信じます。不信仰な私をお助け下さい。」と叫びます。イエス様に全き信頼を置く者は救われます。イエス様こそが真理だからです。そして、そのことば通りに彼の息子は癒されました。そして、イエス様はこのような霊は祈りによらなければ出ていかないとおっしゃいました。私たちがイエス様を信じ、イエス様がそのことを為して下さると確信して祈る時、私たちの人生が変わります。私が主を信じ、主に全幅の信頼をもって祈る時、主はいつも受け入れて下さり、私を導いて下さいます。

讃美歌 254

祈り お父様、あなたが一緒にいて下さるなら、私はどんな危機も乗り越えることが出来ます。ですからどうか私と共にいて下さい。あなたなしでは生きていくことが出来ません。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マイク・サンダー

アイダホ州 ボイシ